

平成 26 年度 鳳凰高等学校自己評価表

学校経営方針	教育基本法及び学校教育法を礎に、本学園の建学の精神である「誠実にして社会に役立つ情操豊かな人間教育」の実現を目指し、学校教育の使命達成に学園の総力を結集して教育成果の向上に取り組み、地域社会の信頼に応えるとともに、開かれた学園として社会に貢献する。
学校教育目標	1.建学の精神を基盤とした「礼儀」「規律」「節度」を体得させる躰教育を実践する。 2.調和した人格形成を目指して敬愛礼讓の心情と博愛の精神を育てる。 3.徳育・体育・知育の円満なる発達をはかる。 4.知識よりも能力を、能力よりも品性を重んずる高貴な精神を育てる。 5.「明朗」「勤勉」「実践」の精神を育て、新世紀を担う有能な人材を育てる。 6.国際交流への理解を深め、グローバルな視野に立った思考力と行動力を備えた人材を育てる。
具現化目標	1.勤勉・博愛の精神の体得と繊細・優雅な人材教育の徹底。 2.個性尊重・自主積極性の助長による文武両道の実現。 3.挨拶励行の推進と豊かな品性・礼節・躰教育の徹底。 4.集団活動による相互扶助・協調性の確立。 5. I T 教育による学力向上と各種検定資格・国家資格の取得。 6.寮・スクールバス等の学園施設と教育体制の有効活用による実践的教育の推進。

評価項目	具体項目	目 標	具 体 的 方 策	評価	成 果 と 課 題
1 学校経営 全職員が共通の理念に立った学校経営の参画における教育的成果の評価 * 100 点満点 () は前年度					
(1)	学校経営方針	経営方針が学校内外に明確に示され、教職員間の相互理解と基づく教育活動を行う。	明示された中長期の学校経営ビジョンを全教職員が共有し教育実践に努める。	83 (83)	本学独自の学校経営方針が示されており、それは生徒・保護者にも明確に示されている。
			教育方針や育てたい生徒像を生徒・保護者・地域社会等に対して明確に示す。	75 (78)	
(2)	学校教育目標の具現化	学校の実態に即した目標が設定され、教もとに、教育目標の具現化を図る。	建学の精神に則った適切な目標を設定する。	78 (78)	それぞれの教育目標の具現化に向け、全教職員が一丸となって努力している。
			教育課題や生徒の実態を踏まえて、本年度の重点目標を設定し、具現化に努める。	80 (83)	
(3)	学年経営	学校目標に沿った学年目標による経営を行う。	学年目標の教員・生徒への浸透を図り、その目標達成のための教育活動を展開する。	80 (80)	月 1 回学年職朝が実施されるようになり、学年部の動きがよりスムーズになった。
			学年部会を月 1 回以上開き、目標達成状況、指導上の課題や学年行事等について職員間の共通理解を図り、統一的な指導を行う。	85 (83)	
(4)	学級経営	学校目標及び学年目標に沿った活気あふれる学級づくりを行う。	学校・学年目標に沿って、学級の実態に応じた学級目標を設定し、意欲的な学級経営を行う。	83 (83)	教育相談が年 2 回実施されているが、生徒のニーズに十分に応えられているとは言えない。
			個別面談を学期に 1 回以上実施し、生徒の多面的理解を深める。	75 (80)	
			生徒が主体的・意欲的に活動する学級経営に努める。	83 (83)	
			学級通信を定期的に発行し、担任の熱意にあふれた情報発信を行う。	68 (70)	

(5)	学科 経営	学科目標 の具現化	学校目標及び学科目標に沿った学科づくりを行う。	学科目標の教員・生徒への浸透を図り、その目標達成のための教育活動を展開する。	83 (80)	月1回の学科職朝が学科目標の実現に向け効果的な役割を果たした。
				学科会議を月1回以上開き、目標の達成状況、指導上の課題や学科行事等について職員間の共通理解を図り、統一的な指導を行う。	93 (85)	
2 教育活動 教育活動全般における教育的成果の評価						
(1)	教育 課程 の編 成	創意工夫 された適 切な教育 課程の実 施	学習指導要領の趣旨が活かされた特色ある教育課程を編成する。	各学科・コースの特性や個々の生徒の進路に適した教育課程を編成する。	85 (88)	各学科ともに特色あるカリキュラムを編成し活発な教育活動を継続している。
				教育課程の実効性や、教育目標の達成状況を定期的に検証する。	83 (83)	
(2)	教科 指導	わかる授 業の展開 と工夫・ 改善	創意・工夫がなされた学習指導を行う。	各教科科目の年間指導計画(シラバス)を作成し、学習目的や学習方法を事前に生徒に説明する。	75 (73)	今年度も研究授業は教科によってバラつきがあり、全校的な取り組みがまだ十分でない。 また、生徒の授業評価についても必ず実施することを制度化する必要がある。
				教材研究や指導力の向上に努め、効果的な授業を行うために研究授業に積極的に参観したり、自らも研究授業を実施する。	78 (78)	
				わかり易い授業を推進するために、生徒による授業評価を定期的実施する。	68 (70)	
(3)	特別 活動	ホームル ーム	学校・学年の教育目標に沿った年間計画により、活発な活動を行う。	年間計画に基づいて、事前準備をよく行い、活発なホームルーム活動を実践する。	65 (65)	年間の実施計画を作成しない限り現状は変わらない。 来年度の重点目標にしたい。
		生徒会活 動の充実	生徒の自主的・自発的な活動を推進する	生徒の自主性を尊重し、積極的・意欲的に活動に参加させる。	75 (80)	
		学校行事 の充実	生徒の実態に即した効果的な行事を企画運営する。	効果的な学校行事となるよう生徒・保護者の意見も参考にしながら常に工夫・改善を行う。	75 (75)	
(4)	生徒 指導	基本的生 活習慣の 「見届 ける指導」	中途退学を未然に防ぐための生徒理解に務め、基本的生活習慣の定着や交通マナーを遵守させる、きめ細やかな指導を行う。	欠席のない、けじめあるクラスづくりの実践	78 (75)	カウンセリングや教育相談の体制は定着しつつある。 挨拶などの基本的生活習慣の定着には相当のエネルギーを要するし時間もかかる。根気強い指導が必要である。
				服装・容儀の徹底指導(特に頭髪・スカート丈)	80 (80)	
				挨拶の励行・時間厳守の浸透(始業時間に授業がスタート)	85 (88)	
				交通安全指導の徹底(違反者・事故者ゼロを目標)	78 (75)	
				教育相談・健康相談・悩みの相談など多角的な生徒理解の推進	88 (88)	

(5)	進路指導	進路指導の充実	系統的・計画的な進路指導を行う	進路実現に向け、模擬試験や検定試験などを計画的に行う	78 (75)	今年度も進路ガイダンスや進路相談会などの取り組みが実施された。
				進路実現に向け、講演会や三者面談・卒業生との交流会などを行う	73 (70)	
				職業観・職業意識を醸成するための効果的な現場実習を体験させる。	68 (73)	
(6)	人権教育	人権尊重に対する普遍的価値観の育成	人権尊重に関する様々な課題を認識させ解決のための実践力を身につけさせる。	日常の教育活動の過程において、人権尊重の精神を培うことにより、互いに助け合い協力しながら課題を解決しようとする態度を育成する。	83 (80)	授業や部活動の中でも留意したい事項である。
(7)	部活動	部活動の活性化	部活動への参加を奨励し、活発な活動を行う。	部活動への積極的な参加を奨励し、学校生活の満足度を高めるとともに、学習との両立ができるよう支援する。	75 (70)	一般部の県大会優勝や文化部の活躍など少しずつではあるが活性化の兆しが見られた。
				部活動を通して、達成感や挫折感等を共有する過程で、忍耐力及び協調の精神、コミュニケーション能力などのたくましい人間力を育む。	73 (70)	
(8)	ボランティア活動	ボランティア活動の充実	ボランティア精神の高揚を図る。	ボランティア情報を提供し、積極的・主体的な参加を奨励する。	68 (65)	今年度も個々のボランティアの参加は見られるが、全校的な取り組みがなかなかできていない。
				施設訪問や環境美化など、身近で取り組みやすい活動の機会を設定し、奉仕の心を育成する。	78 (78)	
(9)	資格取得	各種資格取得奨励	個に応じた指導の一環として、各種資格取得を奨励する。	英語検定、漢字検定、ワープロ検定等に挑戦することを奨励し、学習意欲の喚起につなげる。	70 (68)	受験者数を増加させる取り組みが求められている。
3 組織運営 教育活動の円滑化、教師集団の協働性に関わる教育的成果の評価						
(1)	校務分掌	適切な役割分担、組織的な活動と運営	各自の役割分担が明確であり、分担に応じて適切に校務を処理する。	年度の実態に応じ、各分掌の課題確認と分掌業務の改善に努める。	85 (85)	校務分掌は円滑に機能しており、相互連携も図られている。特定の教員に業務が集中しないように配慮することも大事である。
				校務全体の円滑な推進のため各分掌間・学年・学科間の相互連携を図る。	80 (83)	
				分掌ごとの業務記録、資料の保存に努める。	78 (80)	
(2)	校内研修	研修体制の確立と実践	計画的・組織的に授業研究などを行う。	生徒の実態や本校の課題を踏まえ、全教職員による校内研修を年2回以上行う。	80 (78)	今後も研究授業をはじめとする各種研修を充実させていく必要がある。
				指導実践力の向上を図るため研究授業及びその授業研究を各教科とも年1回以上行う。	80 (78)	
				校外研修の受講者が、必要に応じてその内容を他の教職員に伝達する機会を設ける。	70 (68)	

(3)	現職教育	教職員の資質向上への取り組み	教育センター、各種教育研究会などの研修に積極的に参加する。	教育センター・私学協会・各教科教育研究会で開催される研修会に計画的・積極的に参加し、教職員の資質向上を図る。	78 (78)	全員参加が望ましい姿であるが、なかなか難しい現状である。
4 教育環境 学校の置かれている条件や環境に関わる教育的成果の評価						
(1)	学校環境整備	快適な生活環境の	日々の清掃活動を充実させ、美化意識を高めるとともに、節電・節水など省エネ運動にも取り組む。	日常の清掃活動に全校生徒、全教職員で積極的に取り組む	83 (85)	環境整備や省エネの意識は高く、それなりの成果は上がっている。
				特別な清掃活動(大掃除・愛校作業など)を月1回以上実施する。	83 (85)	
				省エネ運動を推進し、電気・水道使用料を前年比減に努める。	85 (88)	
(2)	施設設備の管理	有効活用と安全管理	施設・設備の有効活用が図られ安全点検等の管理を適切に行う。	施設・設備の安全点検や補修を月1回以上行い、環境整備の保全に努める。	80 (88)	毎週末に査察日を設定し、全教職員で施設・設備の安全点検を実施している。
				日常の教育活動においては、施設・設備の安全運用を最優先とする。	85 (85)	
(3)	情報インフラの設備の充実	教育活動全般の情報化	パソコン等を使った校務処理を適切に行う。	パソコンによる校務処理を推進してデータの共有化を図り効率的な事務作業を行う。	88 (88)	全教職員が公用のパソコンを所持しており、効率的な活用をしている。
				パソコン上の生徒情報等の管理の徹底を図る。諸帳簿類の保管管理体制を整え、適切に運用する。	88 (90)	
5 開かれた学校づくり						
(1)	保護者との連携	協力体制の確立	生徒に関する情報を相互に交換する。	保護者との個別面談を年1回以上行い、生徒の状況について学校と保護者が緊密に連絡や情報交換を行う。	78 (78)	遠隔地(県外)の保護者との連携が取りにくい環境にある。 地区PTAの出席率を高める工夫をしたい。
				PTA総会・地区PTA・保護者会などを活用し、生徒の状況について説明を行う機会を設定する。	73 (70)	
				PTA関係の会議への参加率向上に努める。	70 (63)	
(2)	地域や関係機関との連携	学校間連携の充実	他校や異校種との必要に応じた効果的な連携を行う。	関係中学校や大学等との情報交換や連携に努める。	78 (73)	より一層の関係機関との連携が必要である。
				地域などからの苦情に対し、適切に対応できる体制を整備するとともに、改善をすみやかに行う。	73 (73)	
(3)	学校情報の公開	ホームページの更新	ホームページを見やすくし、定期的更新を行う。	学校情報の積極的発信に努める。	70 (65)	今後も学校の情報発信を積極的に実施したい。

【総評】

<p>評価の結果 (課題と問題点)</p>	<p>(1) 学校経営全般について</p> <p>全体的に評価点が高いが、学級経営に関する項目での評価が前年度と比較すると伸び悩んでいる。担任は更なる情熱を持って学級経営に取り組む必要がある。</p>
	<p>(2) 教育活動全般について</p> <p>教科指導・特別活動に関する評価が低い。研究授業の充実と生徒の授業評価を取り入れた指導法改善も必要である。 また、ホームルーム活動においては、年間指導計画に基づいた活発な活動を展開したい。</p>
	<p>(3) 組織運営全般について</p> <p>校内研修では例年様々な分野の研修を実施しているので、今後も同様の取り組みを継続したい。</p>
	<p>(4) 教育環境全般について</p> <p>現在の施設を有効活用しながら教育活動を展開している。安全点検も怠りなく実施されていることも大事な要因である。全職員が保有している公用パソコンも有効活用されている。 今後、耐震化工事など必要な作業が進行していくこととなっている。またC館活用も具体的に作動する。</p>
	<p>(5) 開かれた学校づくりについて</p> <p>地道ではあるが、PTA 活動やホームページの更新など前進が見られつつある。またまだ評価が低い、根気強く取り組みたい分野である。</p>
<p>今後の改善策</p>	<p>(1) 学校経営全般について 魅力ある学校づくり ※建学の精神にもとづく情熱あふれる教育活動。</p> <p>(2) 教育活動全般について ホームルーム活動の活性化 ※ LHR の年間活動計画を作成し、学年・学科をあげて活動する。</p> <p>(3) 組織運営について 校内研修の充実 ※生徒の実態と社会環境(時代の変化)に即応した研修内容の実施。</p> <p>(4) 教育環境全般について 日常清掃の徹底 ※平素の清掃活動から全教職員・全生徒で真剣に取り組む。</p> <p>(5) 開かれた学校づくりについて 情報発信の充実 ※定期的な部署通信・学級通信による教育目標の具現化。</p>